

# 校長室だより



令和5年12月 8日

No.23

朝、5時をすぎてもまだ真っ暗。6時くらいになるとすこ〜し明るくなって来る…そんな感じの今日この頃の明け方です。5時前から散歩に行きたくてうずうずしている我が家の愛犬は寒くても、暗くてもおかまいなしですが、飼い主の方は玄関を一步出ると寒さに震えあがっています。

音楽をぼーっと聴くのが好きで、よくスマホでサブスクの音楽アプリを利用しています。定額で聴き放題というやつですね。あれ便利ですね。何度か同じような曲を聴いていると、「あ〜あなたはこのミュージシャンやこういう音楽が好きなんですね」って勝手に「きょうのお勧め」のプレイリストを作って配信してくれたりします。もちろん、向こうの会社の人か頭をひねってつくってくれるのではなくAIのしわざですけどね。先日もそんなアプリを開いたところ、「今年のあなたのTOP10はコレ！」え、何?と思ったら、このアプリで私が一年間にどのアーティストのどの曲を一番よく聴いていたか…これがランキングになっているではありませんか。どれどれ…1位は桑田さんの「悲しい気持ち」…あれ?そう?え〜?大好きなピアノマンやヨアソビはどこに行ったの?で、2位がサザンの「勝手にシンドバッド」…う〜ん、そうなの?この人たちの曲、最近ちょっと…なんだけど、「お勧め」で配信されたものを無意識に聴いていたのかもしれないね。

いや、私のランキングはどうでもいいんですが、驚くのはこういうデータがまとめられて個人にぱっと配信されているということです。ビッグデータの活用というのか、AIのほんの一仕事というのか…。一昔前には夢物語だったようなことがいとも簡単に（頼みもしないのに）できています。

これはもちろん教育の世界でもおきていることです。「苦手克服」などと言って、ピンポイントで個別に学習内容が設定されたり、学習到達度や理解度が瞬時に分析できたり、まさに「個別最適」な学習の実践が行われています。特別支援教育の分野ではまだ実践例が少なく、手探りの状態とも言えますが、いずれにしてもAIや大量のデータが進出し、その活用が常識となる時代は良くも悪くもすぐそこに来ていると思います。例えば、こだわりが強く、行動が滞りがちなAさんについて、その行動をしばらくカメラが追跡し、それをAIが統計的に分析し、こだわりの原因や解消の道筋を示す…今まで支援者が勘や経験で得ていたものが科学的に示される、というようなことももしかしたら数年後には当然のようにになっているのではないかと…そんな風に思っているのは私だけでしょうか。もちろん、有効な使い道は戸惑うことなくどんどん使うべきですが、そういう方法やツールはたして万能で、2050年には教員という仕事はAIに取って代わられるという説が証明されるのでしょうか…う〜ん…。音楽アプリからここまで考える必要もないかと思いつつ、特別支援教育の行く末を考え込んでしまう校長でした。

ちなみに私の今年の3位は小泉さんでした。ちょっと安心。

マリノスサッカー教室でマリノスさんからいただきました

